

## 第26回（令和5年度） 下水道管路管理主任技士

### 実地試験問題

（Ⅰ．成果報告書作成に関する実務）

（Ⅱ．施工計画書作成に関する実務）

#### 【注意】

- 1 試験開始の合図があるまでは、試験問題を開かないで下さい。
- 2 落丁等がある場合は、監督員まで申し出て下さい。
- 3 解答用紙は、成果報告書作成に関する実務と施工計画書作成に関する実務の2種類あります。それぞれの解答用紙全てのページに受験番号を記入して下さい。
- 4 試験問題は、4問あります。全ての問題を解答して下さい。
- 5 問1の試験問題の映像は、スクリーン上に映し出します。映像の内容と設問中の記入事項を基に、解答上の注意点を確認したうえで設問に解答して下さい。  
※ 約11分間の映像を3回繰り返して再生します。
- 6 問2の評価・判定は、設問中の本管用調査記録表（P.2）を基に解答して下さい。問1で解答したものと間違えないように注意して下さい。
- 7 解答用紙のホチキスの針をはずさないで下さい。
- 8 試験問題に関する質問には一切応じません。



## ( I . 成果報告書作成に関する実務)

### [問 1]

試験問題映像及び以下の記入事項を基に、本管用調査記録表を作成しなさい。

#### 【記入事項】

路線番号 : 23-1  
管種 : ヒューム管  
管径 : φ250mm  
マンホール間延長 : 15.40m  
管本数 : 9本  
D V D 番号 : 1  
布設年度 : 平成5年  
占用位置 : 市道、車道部

	(上流マンホール)	(下流マンホール)
マンホール番号 :	26	27
マンホール種別 :	1号マンホール	1号マンホール
マンホール深 :	2.51m	2.73m
土被り :	2.23m	2.45m
マンホール蓋種別 :	鋳鉄	鋳鉄
マンホール内点検 :	異常なし	異常なし

#### 【解答上の注意点】

- 略 図 : 異常箇所等の記入に使用する記号は任意とする。
- 継手数と本管数 : 異常のない箇所も全て記入する。
- 異常の内容 : 管の破損、浸入水等の異常内容とランクを所定欄に記入する。  
なお、本試験では「取付け管の突出し」「油脂の付着」「樹木根侵入」「モルタル付着」についても異常内容とランクを所定欄に記入する。
- 異常の位置 : 調査開始マンホールの中心からの距離を所定欄に記入する。
- 取付け管の番号 : 番号の記入方法は任意とする。(例) T-1、T-2、・・・など
- 取付け管の内容 : 右(左)取付け管等を記入し、異常があった場合は、その異常内容を記入する。
- 取付け管の位置 : 調査開始マンホールの中心からの距離を所定欄に記入する。
- 考察・備考 : 損傷状況や異常の判定等について記入する。
- 集計表 : 不良箇所ごとにその内容をランク別に集計する。

### [問 2]

次頁の「本管用調査記録表(評価・判定用)」を基に、異常の項目及びランクからスパン全体の評価と緊急度の判定を行いなさい。

#### 【解答上の注意点】

- ・同一箇所で複数の異常が発生している場合には、最上位の評価ランクのみをカウントする(同一ランクの異常の場合には、何れか1つをカウントする)。
- ・管1本ごとに評価する場合の継手部の異常は、下流側の管の異常としてカウントするものとする。ただし、下流側管口の異常については、上流側の管の異常とする。

**〔問2〕本管用調査記録表（評価・判定用）**

上流マンホール				下流マンホール																					
マンホール番号	マンホール種別	マンホール深	土被り	マンホール番号	マンホール種別	マンホール深	土被り																		
231	組立1号	1.88 m	1.60 m	232	組立1号	1.93 m	1.65 m																		
マンホール内点検				マンホール内点検																					
異状なし				異状なし																					
路線番号 R05 ヒューム管 φ 250 mm マンホール間延長 28.90 m ※ 取付け管及び異状の略図は省略している																									
継手数	管口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	管口										
写真番号																									
内容				管の継手スレ c						管浸の入り継手スレ c c		樹木の根侵入 c													
距離 (m)	0.45			6.43		10.45				18.46		22.44			28.45										
本管数	管口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14										
写真番号																									
内容			クランツク c c		クランツク b		クランツク b a	クランツク c c	クランツク c c		クランツク b b		クランツク c		上下方みの方向の C 終点										
距離 (m)		3.14		7.29		11.72		13.60	15.48		19.37		23.61		27.80										
取付け番号				T-1						T-2					T-3										
写真番号																									
内容				右モ取付け管着 c						左取付け管					右取付け管										
距離 (m)				7.66						17.39					25.51										
考 察	本管の13.60m~27.80mの区間で滞水があり、最大滞水深が8cm程度であったため「上下方向のたるみ-C」と判定している。																								
異状箇所	管の腐食		上下方向のたるみ		管の破損		管のクラック		管の継手スレ		浸入水		取付け管の突出し		油脂の付着		樹木根侵入		モルタル付着		計 ※1				
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
継手部																									
本管部				1																					
取付け管部																									
計																									
備 考（※省略する）																									

※1 「取付け管の突出し」「油脂の付着」「樹木根侵入」「モルタル付着」については、清掃等で除去できる項目とすることから異状箇所数のみ（）内に表記し、「集計」及び「管1本ことの評価」の対象外とする。

## (Ⅱ. 施工計画書作成に関する実務)

### [問3]

次の調査対象箇所において、作業日数及び各労務職種の人数を算定し、算定した作業日数を基に工程表を作成しなさい。

#### [調査対象箇所]

- ・ 塩ビ管 ， 管径 200mm ， 土砂深 20%  
調査対象スパン：35m×20 スパン + 50m×13 スパン
- ・ 陶管 ， 管径 350mm ， 土砂深 25%  
調査対象スパン：40m×9 スパン + 45m×18 スパン
- ・ ヒューム管 ， 管径 500mm ， 土砂深 10%  
調査対象スパン：45m×6 スパン + 60m×5 スパン

#### [作業条件]

- ・ 既設管きょ内を高圧洗浄車にて清掃工を実施し、テレビカメラ調査工（直視側視式）を行うものとする。
- ・ 昼間作業とし、保安要員及び監視員は計上しない。
- ・ マンホール深は、3m以下とする。

#### [工程表作成上の注意点]

- ・ 工程表作成時における現場作業の実施体制は、高圧洗浄車清掃工を実施する作業班と、テレビカメラ調査工を実施する作業班の2班体制とし、同一箇所における清掃と調査の連続作業（同日開始）が可能であるものとする。
- ・ 算定した作業日数の他に、準備工として5日間を見込むものとする。

### [問4]

あなたが従事した下水道管路施設の維持管理業務（清掃、調査、修繕・改築）のうちから代表的なものを1つ選び、それについて次の①と②の間に答えなさい。

- ① 業務概要を記述しなさい。
- ② この業務実施にあたり、あなたが“工程管理面で創意工夫した点”について500字以内で記述しなさい。